

国境炭素調整

- 制度の概観と理論による評価 -

蓬田 守弘
上智大学経済学部

2022年9月4日

概要

本稿では、国境炭素調整 (Border Carbon Adjustments) の導入背景や制度について概観し、国際貿易理論の分析枠組みを用いて国境炭素調整の制度を評価する。欧州連合 (EU) が導入を計画している炭素国境調整メカニズム (Carbon Border Adjustment Mechanism, CBAM) では、輸入炭素関税のみを実施することが提案されているが、輸出還付も同時に導入すべきだとの意見もある。そこで、国際貿易論の寡占モデルを用いて、国境炭素調整の導入根拠とされるカーボンリーケージ防止の観点から、輸入炭素関税だけでなく輸出還付を国境炭素調整の制度に含めるべきかを検討する。企業の炭素集約度や輸出市場の規模が輸出還付導入の是非を判断する際に重要であることを示す。